

外套と短剣 (1946)

CLOAK AND DAGGER

メディア 映画

ジャンル サスペンス ドラマ

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 106分

初公開日 1953/02/21

公開情報 WB

【解説】

南仏の諜報員が死を賭してOSSのウォルシュ大佐に打電した内容は、ドイツに向かうウラン鉱石積載の列車に関してだった。独軍は原爆製造に成功しつつある。その阻止には開発担当の物理学者を翻意させ、連合軍側につかせる他ない。大佐は旧友のジェスパー博士（クーパー）を口説き、この気鋭の物理学者をスイスで保護したハンガリーの女科学者ローダに引き合わせる。彼女はナチの脅迫を受け、伊のポルタ教授と共に核爆弾の研究を続けていたが、自力でここまで逃げのびたのだ。しかし、収容所のハンガリー人を殺すとの脅しに再び彼らの元に戻って自害する決意でいた。ジェスパーは彼女を説得し、その研究成果の伝授の約束をしたが、彼女はナチに誘拐され、助けに駆けつけた時に射殺された。彼はポルタ教授を救いにイタリアへ潜入。パルチザンの協力を得、独の科学者と偽って教授とコンタクトを取り、娘を誘拐され身動きのとれない実状を聞かされ、その解放に動く。博士の目付け役ルイジの妨害に無言の格闘（美男クーパーの顔に、敵の鉄の爪が食い込む怖さ！）の際、彼を殺し、初めての凶行におののくが、事の他、博士を連れ出すのも娘の解放もうまくいった。と思えば、全ては敵の察知する所で、アジトに連行した博士の娘はニセ者だった。そして包囲された仲間たちを後に、彼と博士、最大の協力者――女闘士ジーナ（パルマー）はなんとか逃げ落ち、ジェスパーはジーナとの別れを惜しみながら、英軍機に博士と共に乗り込むのだった。

ラングの回想によれば、オリジナルには、ナチの原爆工場を突き止め、六万人の奴隷労働者の殺戮の報告を聞く、もう一巻分の挿し話がある。が、本作はやはり彼の「マン・ハント」がそうであったように、極限の状況下における主人公とヒロインのロマンスが実に自然に感動的に描かれており、現在のラストもそう悪い印象はない。パルマーは元教師の活動家の複雑な内面を見事に表現していた。

【クレジット】

監督	フリッツ・ラング	Fritz Lang	
製作	ミルトン・スパーリング	Milton Sperling	
原案	ボリス・イングスター	Boris Ingster	
	ジョン・ラーキン	John Larkin	
脚本	アルバート・マルツ	Albert Maltz	
	リング・ラードナー・Jr	Ring Lardner Jr.	
撮影	ソル・ポリト	Sol Polito	
編集	クリスチャン・ナイビー	Christian Nyby	
音楽	マックス・スタイナー	Max Steiner	
出演	ゲイリー・クーパー	Gary Cooper	アルヴァ・ジェスパー教授
	リリー・パルマー	Lilli Palmer	ジーナ
	ロバート・アルダ	Robert Alda	ピンキー
	ウラジミール・ソコロフ	Vladimir Sokoloff	ポルダ

J・エドワード・ブロムバーグ	J. Edward Bromberg	トレンク
マージョリー・ホシェル	Marjorie Hoshelle	アン・ドーソン
ルドウィッグ・ストッセル	Ludwig Stossel	